

令和4年 東京都人口動態統計年報 (確定数) のあらまし

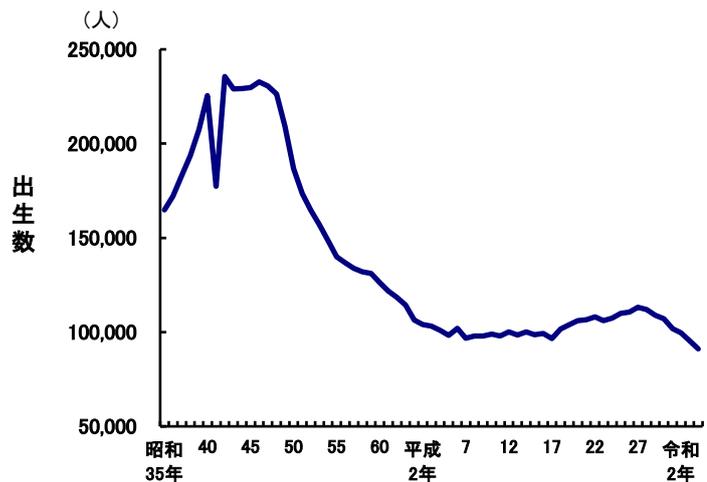
1 出生

出生数は4.5%減少

令和4年の出生数は91,097人で、前年の95,404人より4,307人(4.5%)減少した。人口千人当たりの出生数を表す「出生率」は6.8で前年の7.1より低下した。

【人口動態統計年報(以下「年報」という。)第1表】
全国の出生率は6.3で【年報第5表】、前年の6.6より低下した。

図1 出生数の年次推移(東京都)



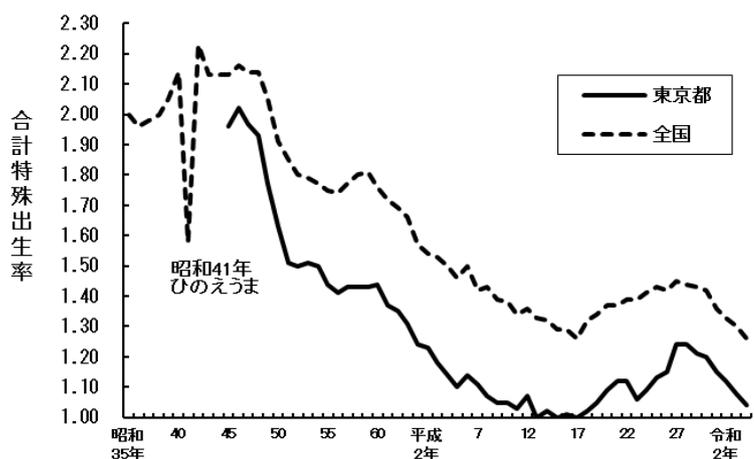
合計特殊出生率は0.04ポイント低下

令和4年の合計特殊出生率※は1.04で、前年の1.08より0.04ポイント低下した。(年報「調査の概要」の「6 利用上の注意」(3)を参照)

【年報第3表】

区市町村別にみると、区部での最高は中央区(1.31)、最低は板橋区(0.92)、市部での最高は稲城市(1.34)、最低は多摩市(0.96)、町村部での最高は青ヶ島村(4.02)、最低は利島村(0.36)だった。(別表参照)

図2 合計特殊出生率の年次推移(東京都、全国)



注 昭和44年までは、東京都の継続した数値はない。

※ 合計特殊出生率

15歳から49歳までの女性の年齢別出生率を合計したもの。

1人の女性が仮にその年の年齢別出生率で一生涯の間に生むとしたときの子供の数に相当する。

なお、算出に用いた出生数の15歳及び49歳には、それぞれ14歳以下、50歳以上を含んでいる。

15歳未満、45～49歳、50歳以上を除く全ての階級で出生数が減少

出生数を母の年齢（5歳階級）別にみると、15歳未満、45～49歳、50歳以上を除く全ての階級で前年より減少した。

【年報第6表】

平成10年からは25～29歳に代わって、30～34歳の出生数が最多となり、更に、平成21年からは35～39歳の出生数が25～29歳の出生数を上回っている。（図3）

また、30歳代の出生数は7年連続減少し、40歳代の出生数も6年連続減少した。

一方、全国と東京都の出生割合を比較すると東京都の30歳代及び40歳代の出生割合が高くなっている。

（表1）

図3 母の年齢別出生数の年次推移（東京都）

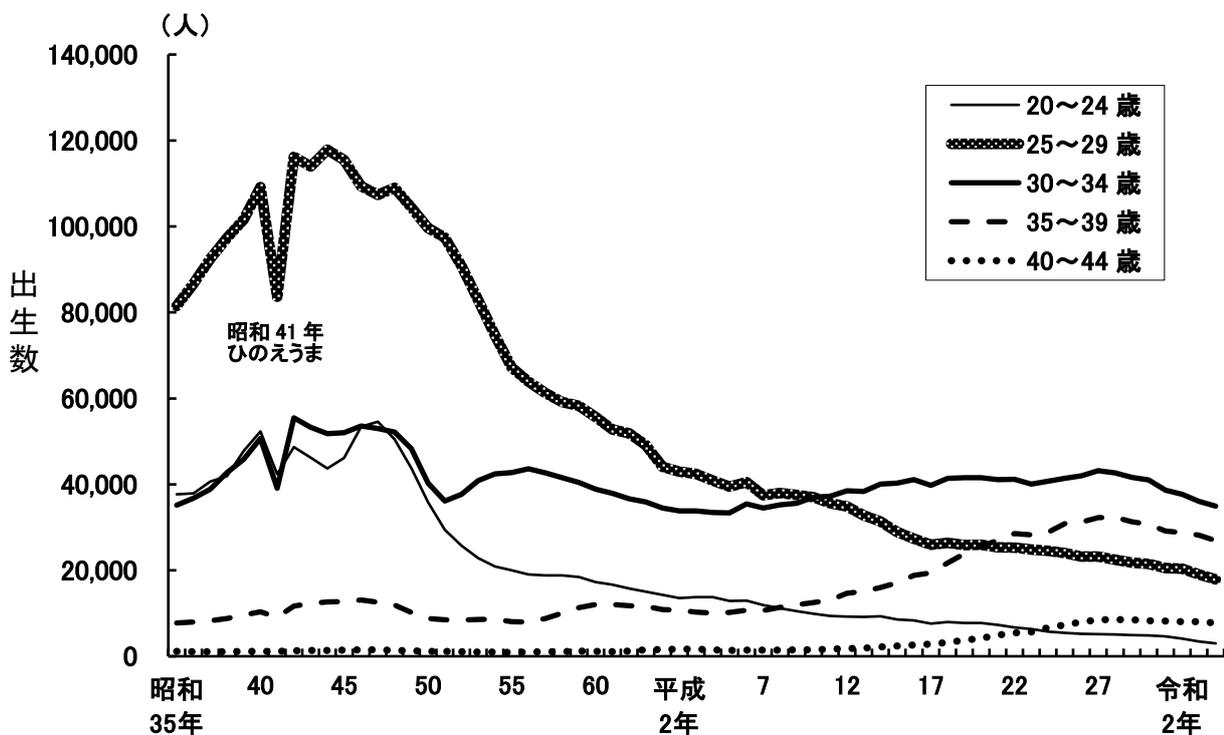


表1 母の年齢別出生数、総数に対する割合

母の年齢	15歳未満	15～19歳	20～24歳	25～29歳	30～34歳	35～39歳	40～44歳	45～49歳	50歳以上	総数
	出生数（人）									
全国	27	4,531	52,850	202,505	279,517	183,327	46,338	1,600	58	770,759※
東京都	3	254	2,999	17,890	34,903	26,927	7,773	327	21	91,097
	総数に対する構成割合（％） ※小数第三位まで表示									
全国	0.004	0.588	6.857	26.273	36.265	23.785	6.012	0.208	0.008	
東京都	0.003	0.279	3.292	19.638	38.314	29.559	8.533	0.359	0.023	

全国・・・「令和4年(2022)人口動態統計（確定数）の概況」第4表－(1)（厚生労働省）

※総数には母の年齢不詳を含む。

2 死 亡

死亡数は9.1%増加

令和4年の死亡数は139,264人で、前年の127,649人より11,615人(9.1%)増加した。人口千人当たりの死亡数を表す「死亡率」は10.4で、前年の9.5から0.9ポイント上昇した。【年報第1表】

全国の死亡率は12.9で、東京都の方が低い値となっている。

地域別に死亡率をみると、区部は9.5で東京都全体(10.4)より低くなっている。

一方、市部は10.6、郡部は19.3、島部は17.2で東京都全体(10.4)より高くなっている。【年報第4表】

また、乳児死亡数(生後1年未満の死亡)は148人で、前年の160人より12人(7.5%)減少した。出生千人当たりの乳児死亡数を表す「乳児死亡率」は1.6で、前年の1.7より低下した。新生児死亡数(生後4週未満の死亡)は74人で前年の68人より6人(8.8%)増加した。出生千人当たりの新生児死亡数を表す「新生児死亡率」は0.8で、前年の0.7より上昇した。【年報第1表】

死因別死亡数は「悪性新生物<腫瘍>」が第一位

死因別にみると、死因順位の第一位は昭和52年以降連続で「悪性新生物<腫瘍>」である。「悪性新生物<腫瘍>」による死亡者数は34,799人(死亡者総数139,264人の25.0%)で、前年の34,341人より458人(1.3%)増加した。

第二位は「心疾患」(死亡者総数の14.9%)、第三位は「老衰」(同12.1%)、第四位は「脳血管疾患」(同6.5%)、第五位は「肺炎」(同4.3%)となっている。新型コロナウイルス感染症の死亡者数は、4,827人だった。

全国も上記の順位は東京都と同じである。【年報第8表】

図4 死亡数の年次推移(東京都)

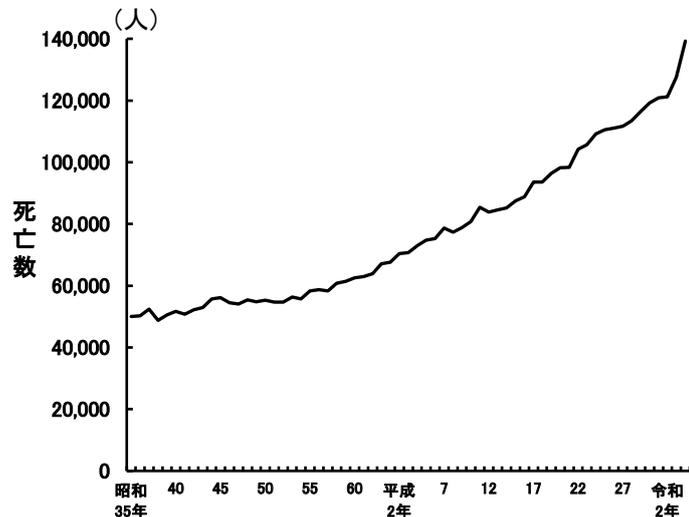
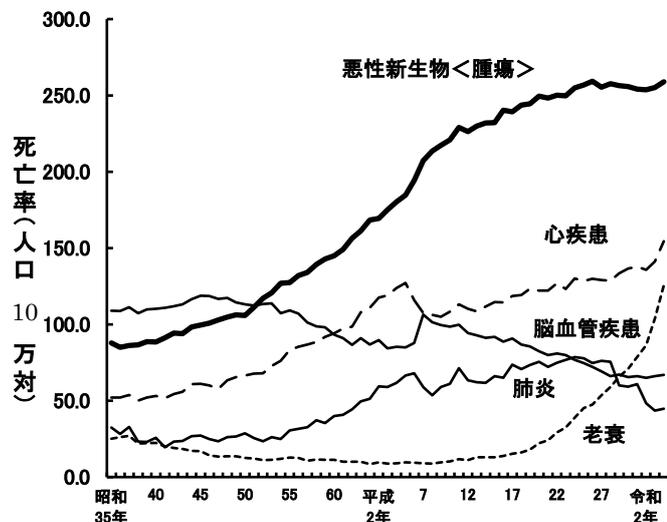


図5 主要死因別死亡率の年次推移(東京都)



3 自然増減

自然増減は7年連続減少

令和4年の自然増減[※]数は△48,167人で、7年連続の自然減となった。(前年は△32,245人、前々年は△21,558人、3年前は△19,052人、4年前は△12,103人、5年前は△7,463人、6年前は△1,451人)

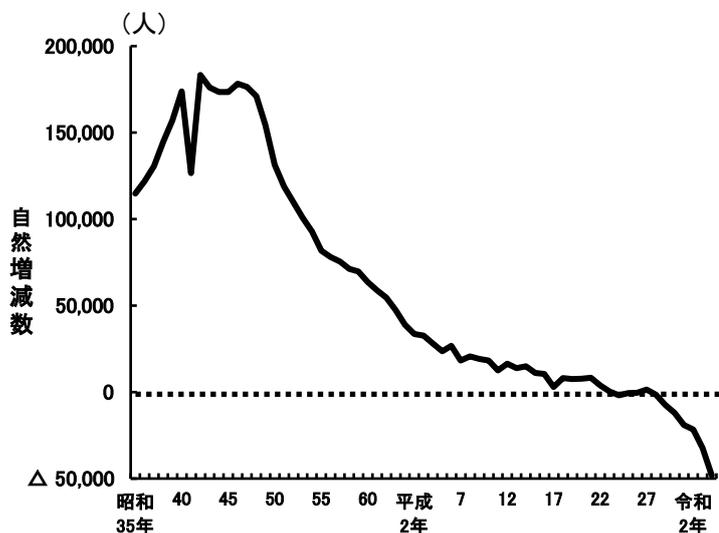
また、人口千人当たりの自然増減数を表す「自然増減率」は△3.6で、前年の△2.4より低下した。

【年報第1表】

※ 自然増減

出生数から死亡数を減じたもの

図6 自然増減数の年次推移（東京都）



4 死産

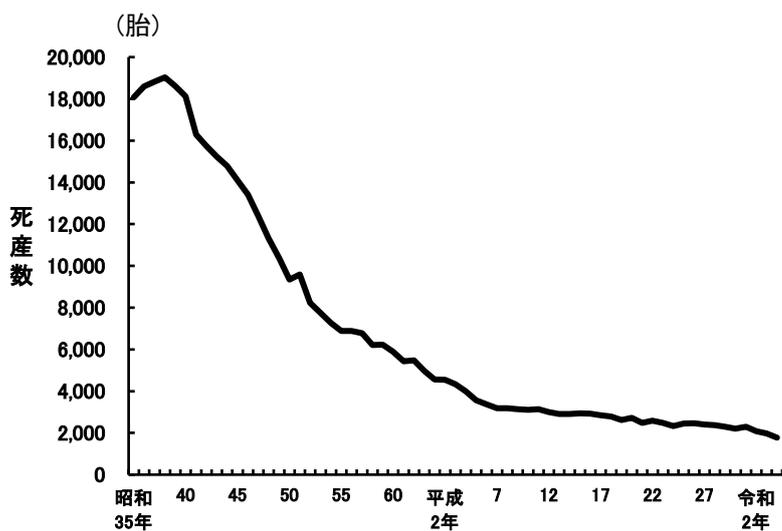
死産数は減少

令和4年の死産数は1,773胎で、前年の1,975胎より202胎(10.2%)減少した。

また、出産千人当たりの死産児数を表す「死産率」は19.1で、前年の20.3より低下した。

【年報第1表】

図7 死産数の年次推移（東京都）



5 婚姻

婚姻件数は増加

令和4年の婚姻件数は75,179組で、前年の69,813組より5,366組(7.7%)増加した。

人口千人当たりの婚姻件数を表す「婚姻率」は5.6で、前年の5.2より上昇した。

【年報第1表】

全国の婚姻率は4.1で、東京都の方が高い値となっている。

地域別にみると、区部は6.1で東京都全体(5.6)より高く、市部は3.7、郡部は2.6、島部は3.8で東京都全体より低くなっている。

【年報第4表】

東京都の平均初婚年齢は夫32.3歳(全国夫31.1歳)、妻30.7歳(全国妻29.7歳)で、夫・妻とも全国で最も高い。(表2)

図8 婚姻件数の年次推移(東京都)

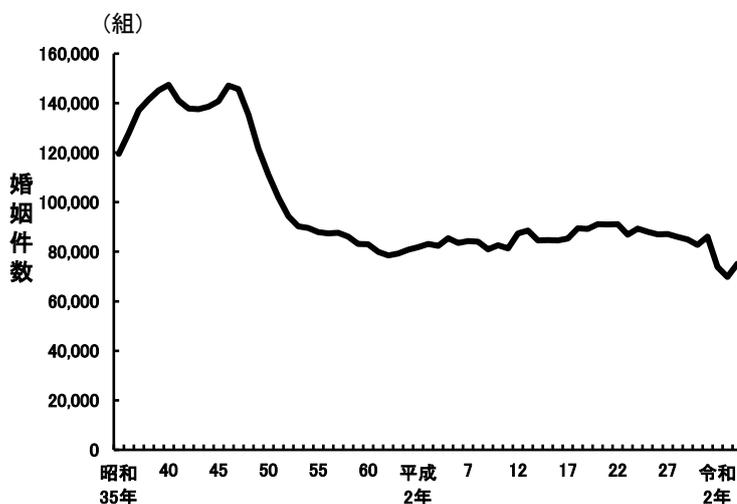


表2 平均初婚年齢、東京都と全国の比較

	令和3年		令和4年	
	夫	妻	夫	妻
全国	31.0	29.5	31.1	29.7
東京都	32.2	30.5	32.3	30.7

出典:「令和4年(2022)人口動態統計(確定数)」婚姻 第9-12表(厚生労働省)

6 離婚

離婚件数は減少

令和4年の離婚件数は19,255組で、前年の19,605組より350組(1.8%)減少した。

人口千人当たりの離婚数を表す「離婚率」は1.43で、前年の1.46より低下した。【年報第1表】

全国の離婚率は1.47で、東京都の方が低い値となっている。

地域別にみると郡部は1.72、島部は1.98で東京都全体(1.43)より高く、区部は1.41、市部は1.27で東京都全体より低くなっている。

【年報第4表】

図9 離婚件数の年次推移(東京都)

